



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

「スピリチュアル・ツーリズム③」 時空を超えた恋

住宅街の道路を直進すると岩さんの“貧宅”があった。玄関は広くもなく小こじんまりした平屋のように見えた。

「さあさあ、どうぞ、どうぞ」

と導かれて入ると奥さんが出迎えてくれた。彼女に会うのは実に23年ぶりである。少しも変わっていない。平屋だが四部屋とリビング・ルームがある。わが輩には彼の亡母の部屋があてがわれた。

(まあまあ、標準的かなあ～)

一階から地階に下りると、あっと驚いた。ビッグなリビング・ルームが広がっていた。一畳ほどのテレビ・ボード、お洒落な調度品でしめられていた。さらに別棟まである。ガーデンにはプールがあるではないか。いいや、それだけではない。ジャグジーまである。

「ジャグジーに浸かって昔話をしましょう」

と岩さんが誘ってくれた。ここで“海水パンツ”の意味を悟った。

(OK、望むところだ)

次から次に話が弾み、わが輩はのぼせてしまった。

夕食はガーデン・バーベキューである。奥さんの手料理はシシカバブーである。実は彼女はペルシャ人の末裔である。

「うまい！特にご飯のおこげが美味しい」

なんでもイランにはおこげのできる炊飯器があるそうだ。息子さんと妹夫婦を加えて食卓を囲んだが、会話は殆ど日本語であった。

奥さんの立ち振る舞い、特に挨拶の仕方などは、今どきの日本人にはない上品さがある。きっとお義母さんを真似たのであろう。

それに優秀な頭脳もっている。映画「アナと雪の女王」の主題歌を歌った歌手 May J の母親とは留学生仲間であった。

明日は早い。5時に起床して出発である。

今回の主目的地カウラまで320キロある。往復650キロを越えるドライブ旅行である。片道4時間はかかるので運転が大変である。道路のところどころにカンガルーの死骸がころがっ

ていた。急に飛び出してくるらしい。時速 80 キロで飛ばしているので重大な事故になる。眠気を避けるため常に話しかけた。

岩さんは「古代にペルシャ人が日本に来た」と考えていたが、それは仮説であった。松本清張が唱えた説でもある。飛鳥時代にペルシャ人の宗教ゾロアスター教（拝火教）を斉明天皇が信仰した。その遺構が酒船石だと推理した。それはあくまで仮説であった。

ところが昨年平城京跡で木簡が発見され、ペルシャ人の名前が記されていた。

それで岩さんの関心は勢いづいた。

当麻寺の四天王の顔つきがペルシャ人そっくりだと言う学者もいる。そういえば、岩さんの顔も何となくペルシャ人のように見えないこともない。色白で天然パーマである。ペルシャ系の DNA がイラン人の奥さんを引き付けたのか。さすれば時空を超えた恋ということになる。

実は岩さんの説は、もっと大胆である。ペルシャ人はシベリアから北海道に渡り南下して来たという説を唱えている。

わが輩の説はこうだ。

夫婦というものは一緒に暮らしていると、顔が似てくると世間の人と言う。わが輩と愚妻の顔も何となく似てきた。いや、わが輩が愚妻を選んだとき（否、選んでいただいたとき）、すでに彼女の中にわが輩の“部分”を見ていたのであろう。類似性を見つけることで、味方だと認識する。

（大抵は“誤認”だよ）

岩さんもその類似性によって奥さんを選んだのであろう。それではロマンにならない。やはりここは“時空を超えた恋”だとしておこう。

眠気に襲われることなく、われらはカウラに着いた。ここでスピリチュアル・ツーリズムの本質が明らかになる。次号ご期待。